平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 11	公益目的事業 19
主査名	田淵隆俊 東京大学大学院経済学研究科教授	
研究テーマ	通勤鉄道混雑と都市集積の経済分析	
研究の目的： <p>本年度の共同研究プロジェクトでは、平成 29 年度の共同研究プロジェクト「都市交通市場と航空市場、および都市経済の分析」を継承し、上記二つのテーマの成果をどのように政策分析に応用できるか研究することを目的としている。</p> <p>具体的には、頻繁に研究会を行い、プロジェクト参加者間で議論することによって、通勤鉄道混雑と都市集積の経済を考慮した分析を行い、都市交通政策に適用することを目指しつつ相互の理解を深めていくのが目的である。研究会で得られた知見を踏まえて、プロジェクト参加者が、自らの学問的立場で、プロジェクトの成果を理論的、実証的に発展させる研究を行う。</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>本プロジェクトでは、平成 29 年度までのプロジェクトの成果を継承しつつ、通勤鉄道混雑と都市集積の経済について、理論面、実証面の両方から幅広く分析を行った。具体的には、以下の研究報告に基づいて多角的な議論を行い、研究を遂行した。</p> <p>岡本千草（東京大学） "Neighborhood Externalities from "One-room Apartments"</p> <p>安田昌平（日本住宅総合センター） 「被災地域と非被災地域の災害リスクに対する反応」</p> <p>Achim I. Czerny (Hong Kong Polytechnic University) "A pricing versus slots game in airport networks"</p> <p>Gilles Duranton (University of Pennsylvania) "Mobility and congestion in urban India"</p> <p>David Albouy (University of Illinois at Urbana Champaign) "The optimal distribution of population across cities"</p> <p>藤嶋翔太（東京理科大学） "Heterogeneous treatment effects of a place-based policy: the role of production networks"</p> <p>Xiannong Zhang (Washington University in St. Louis) "Network formation with negative links"</p> <p>森知也（京都大学） "Collaborative knowledge creation: Evidence from Japanese patent data"</p> <p>福村晃一（東京大学） "Skill Biased Technical Vhange, Demographics, and Market Size"</p> <p>古澤泰治（東京大学） "Relationship Specificity, Market Thickness, and International Trade"</p> <p>澤田有希子（東京大学） "On International Trade"</p> <p>高山雄貴（金沢大学） "Time-varying congestion tolling and urban spatial structure"</p> <p>菅澤武尊（東北大学） "Accessibility to the nearest urban metropolitan area and rural poverty in Japan"</p> <p>齋藤久光（北海道大学） "FDI and labor market reallocation in a developing country: Evidence from Indonesian plant-level data"</p> <p>村山透（筑波大学） 「時間帯と空間による複数市場の分析」</p> <p>石川義孝（帝京大学） 「在留外国人の地図化と日本の外国人政策への含意」</p> <p>大澤実（東北大学） 「消費者と企業の相互作用のもとでの都市構造」</p> <p>Yi-Ling Cheng (National Sun Yat-sen University) "Trade, Emissions, and Policy (Non-)Compliance: Implications for Firm Heterogeneity"</p>		

平成 30 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究の成果（自己評価含む）：

高速道路や新幹線などの交通インフラの整備は、通常は地域経済にプラスの影響を与えるが、スロー効果のようにマイナスの影響を与えることもある。そこで、交通インフラ整備が地域経済に与える影響を計量的に分析し政策評価につなげることの意義は大きい。特に近年は、実証研究技術の向上に伴い、交通インフラ整備の政策評価の技術とその水準が劇的に向上している。そこで本研究では、近年の交通インフラ整備の政策評価、特に地域経済への影響について分析した先行研究に焦点を当て、多角的なサーベイを行った。

今後の課題：

わが国の交通インフラ整備が地域経済に与える影響の経済厚生を計量的に分析することによって、効率性と公平性の観点から政策評価を行いたいと考えている。